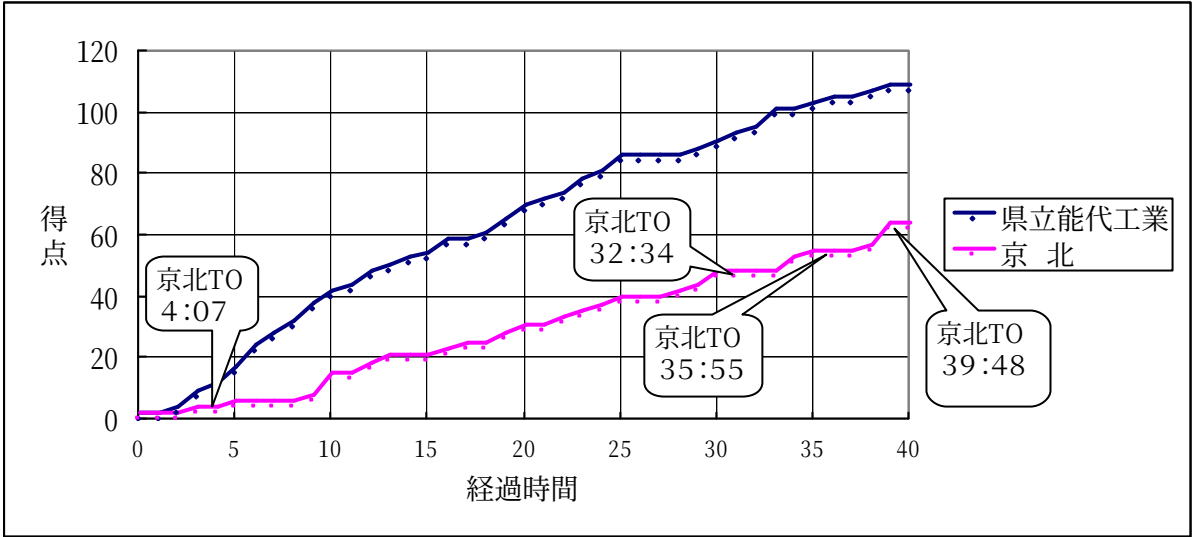


大会名	平成19年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会第60回全国高等学校バスケットボール選手権大会	E2	11:40	男子 3回戦
期日会場	2007年（平成19年）7月31日（火） 唐津東高等学校	県立能代工業 107	秋田 ○	40 — 13 28 — 16 21 — 17 18 — 16 — 62 京 北 ● 東京

主審 森 田 周 治 副審 宇地原 尚 彦



県立能代工業

	No.	氏 名	点	3P	2P	FT	F
◎	4	渡部 敬祐	21	5	3	0	1
○	5	満原 優樹	33	0	15	3	1
○	6	高橋 健太郎	15	1	6	0	2
○	7	長谷川 技	13	0	5	3	0
○	8	高橋 陽	3	1	0	0	3
	9	宮川 光	16	0	7	2	2
	10	館山 健太	2	0	1	0	4
	11	石川 朝	2	0	1	0	0
	12	荒生 純平	0	0	0	0	0
	13	伊藤 伸高	0	0	0	0	0
	14	小川 昌志	0	0	0	0	0
	15	武藤 修平	2	0	1	0	0
	16						
	17						
	18						
コーチ		加藤 三彦					
		合計	##	7	39	8	

京 北

	No.	氏 名	点	3P	2P	FT	F
◎	4	田渡 修人	36	2	10	10	2
○	5	秋 真志	0	0	0	0	3
	6	上原 拓也	7	1	2	0	0
○	7	井上 晃伸	0	0	0	0	0
○	8	萩原 和也	2	0	1	0	4
	9	工藤 竜二	0	0	0	0	0
○	10	金 賢	4	0	2	0	4
	11	目 健人	3	1	0	0	1
	12	池田 龍之介	10	2	2	0	1
	13	平久保 秀紀	0	0	0	0	0
	14	高原 佑輔	0	0	0	0	0
	15	佐藤 祥	0	0	0	0	0
	16						
	17						
	18						
コーチ		田渡 優					
		合計	62	6	17	10	

○はスターター ◎はキャプテン) 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦 評

伝統校同士のベスト8をかけた注目のカード。能代工業対京北の対戦は、総合力で上回る能代工業が107対62の45点差で勝利し、ベスト8進出。第1P 能代工業2ー1ー2ディフェンス・京北2ー3ゾーンディフェンスでスタートする。能代工業#5満原の連続リング下シュートで先手をとる。その後能代工業伝統の走るバスケットボールが展開され#8高橋の3Pが決まり開始4分で10対2とリード。京北がタイムアウトを請求し、2ー2ー1ゾーンプレスを展開する。京北も#4田渡の1対1で攻勢をかけるが、能代工業#4渡部の3P、#5満原ミドルシュートが決まり40対13と連攻を繰り出した能代工業が大きくリードして終了。第2P 大きく点差を広げられた京北は能代工業の激しいディフェンスに対して#4田渡、#12池田が3Pをねらいにいくが入らない。能代工業はリバウンドをことごとく支配し、連攻を出し63対23と40点差となる。しかし、京北も#4田渡のレイアップシュート、#12池田の3Pで追いつき68対29で終了。第3P 能代工業のディフェンスは確実にリバウンドを支配し、#5満原、#7長谷川のシュート、#4渡部の3Pが決まり開始4分で79対33と大きくリードする。京北はエース#4田渡の1対1で対抗する。しかし、シュート力に優れた能代工業は的確に点数を重ねて、89対46で3P終了。第4P 4年ぶりの栄冠をめざす能代工業は確実にチームカラーを全面に出すバスケットボールを展開し、#5満原、#6高橋らのシュートが連続で決まり出す。対する京北も#4田渡、#6上原の3Pシュートで対抗するが選手層の厚い能代工業の前に107対62の大差で佐賀の地を去ることになった。

記者 中島 義孝 所属 佐賀県バスケットボール協会